

令和3年度第2回高知県医療審議会保健医療計画評価推進部会
及び高知県地域医療構想調整会議連合会 書面審議結果

【第1回】

1 意見照会日

令和4年1月28日

2 協議等の結果

(1)協議事項

「第7期高知県保健医療計画の評価について」

委員からの意見は以下のとおり。

- ・独居、高齢者対策(80/50問題)。精神科医かかりつけ医制度の導入など予防活動への意識をされてはどうか。
- ・中山間やへき地対策として、高知大学は県の寄附講座で、家庭医療学講座があり、梶原や馬路のモデルがあると思います。この実績をもっと活用しアピールする目標を残してはどうでしょうか。
- ・南海トラフ地震やコロナ対策として、今後公共心理師のマンパワーが必要です。高知県には心理師の養成機関や教育機関がなく、人的調整やメンタルヘルス対策が間に合わないのが公共心理師への対策を入れてほしいと思います。
- ・精神科救急情報センターの設置以来、精神科救急のトリアージが大変スムーズになってきたように感じています。
- ・訪問医療現場での暴力対策は県として重要な取り組みかと思えます。
- ・歯周病は、中高年になってから急激に重症化する傾向があり、若手世代 20代~40代における歯周病検診の充実が必要と思われる。(ex.大学生(専門学生、短大生を含む)の歯科検診機会の確保等)
- ・糖尿病と歯周病の相関については、医学的エビデンスが確立されており、本県でもレセプト等を活用した相関状況を継続して分析し、課題を抽出し本県での解決策を検討する必要があると思われる
- ・糖尿病とその予備群の有病率、へき地医療あるいは在宅医療に従事する医師数の確保、あるいはDMATチーム数の伸び悩み等は、喫煙率・救急車の適正利用といった県民全体への啓蒙が必要な項目への対策と共に、新たな切り口を探すことも必要かと感じました。
- ・災害時の医療の「医療機関の防災対応」1、耐震化の促進等の項目で指定されている救護病院の耐震化で目標(令和5年度)の耐震化率 94%(50/53)と明記されていますが、地震が頻繁に起こっている事から考えると早急に 100%にすることが必要だと思います。特に津波浸水地域、急傾斜地、土砂災害危険地域等に立地している病院から進めていただければ有り難いと思います。
- ・診療科の偏在は、産婦人科だけではなく、内科・外科のメジャー科が足りないのも、地域医療にとっては大問題。地域でほしいのは、内科や総合内科など。
- ・病院薬剤師の処遇改善(給与アップ)、調剤薬局との給料格差是正が必要

(2)報告事項

「地域医療構想に関する交付金の活用について」

意見なし